

たより



平成26年度夏季教職員研修講座

【佐々木昭弘先生を迎えて (筑波大学附属小学校 教諭)】

- ★師範授業「紙コップロケットを飛ばそう」
- ★講演会「他教科と連携する理科授業づくり」

北浜小の6年生の子どもたちに、「酸素があるから物が燃える」(酸素の性質)を確認する学習をしていただきました。上蓋をくり抜いた空き缶にコップをかぶせ、下の穴からLPガスを入れて、火を付けると「ポン！」という音を立てて、紙コップが飛び上がります。飛び上がったコップを見て喜んだ子どもたちは、もっと高く飛ばせないか考えました。

そこで、ガスをたくさん入れたらもっと高く飛ぶだろうと、LPガスをたくさん噴き込みましたが、紙コップは飛ばなくなっていました。「なぜだろう？」子どもたちは、言葉をつなぎながら考え、

酸素がなければガスは燃えないという答えを導き出しました。



最後に先生がついて行った「酸素がなければガスは燃えない」というLPガスの入った缶に、酸素を吹き込んで火をつける検証実験では、LPガスの入った缶に、酸素を吹き込んで火をつけると、「ポン！」と大きな音を立ててコップが高く飛び上がりました。

アンケート(抜粋)

- ・授業の展開がどの子もひきつけられるものであり、理科が苦手な子供でも生きていける授業であったと思う。ポイントとなる言葉を板書している、問題文を部分的に用いた回答の書き方、間違った意見を言っても認めてもらえる安心感……。この授業を自分が受けていたら理科嫌いな子供(私も)力をつけていけようと思えました。
- ・理科の師範授業は初めて見せていただきました。子どもがやりたくなる課題掲示の仕方、活動の中での適切な指示、子どもの思考や様子の把握の仕方等色々な事を授業の中で教えていただきました。言語表現、子どもにとって難しい事ですが事実と解釈を分けて書くなど指導の視点がわかり今後に活かしていきたいと思えます。
- ・授業の中では子供たちの思考が変わっていく様子がよくわかりました。実験のインパクトさや先生のテンポのよい授業の進め方でどの子も今日の学習内容がすっと心の中に落ちたと感じていました。子供たちが考える時間と実験する時間もバランスよくそれも思考の変化につながっていたと思いました。講演では先生の考えや思いを一つ一つ丁寧に話してくださったのでよくわかりました。今後の授業に役立てていきたいことを沢山学ばせていただきました。
- ・スカツとする授業でした。子供たちの概念砕きを見事に演出した授業でした。その中で科学的な事実を自分たちの目で、頭で発見させられるようになっている素晴らしい授業でした。また、授業の中でも子供たちを集中させるコツなども参考になりましたし、問いに対して答え方を丁寧に指導していたのも印象に残りました。その後の協議会で更にその意図を深く理解しました。
- ・本時の目標(問題)の確認を何度も何度も言いながら授業を進められたのは印象的でした。また、安全面に関しても子供が自分の言葉で言えるまで確認していたのがとても大切なことだと思いました。子供たちは緊張しながらも普段よりもずっと集中し、頑張っていたのを嬉しく思い参観していました。目と心を理科の実験時にうまくつかわれていたのが結果をまとめる上で有効だということもよくわかりました。後の講演がとてもいろんなことが出て知りたいことがいっぱい聞けて良かったです。
- ・佐々木先生の子供たちへの声掛けの仕方が子供の意欲をひきだして素晴らしかったです。テンポよく大切なポイントは子供に抑えさせるなど自分たちが学んでいる達成感を味わえたことと思います。指示も的確で実験の際にまず安全第一で行うための声掛けがよくわかりました。教師も子供の状況を目で把握しやすいように立って話し合わせたり書けたりわからない子には机間巡視させるなど参考にしたいと思いました。とても楽しい授業を本当にありがとうございました。
- ・問題の確認→予想→実験→再予想→再実験→結果から分かったことをまとめるという過程に子供たちが一生懸命考えながら取り組めており感心しました。短時間で自分の言葉で考える、表現する。ということ子供たちに教えられており、また小さな指示もとても参考になりました。こんな風に子供たちが生き生きと取り組み、考えを深められるような授業ができるよう授業づくりを進めていきたいと思いました。